

実施日：1月28日	
教科等：特別の教科 道徳	
取組名：誰もが安全で安心して過ごせるためにできることを考えよう。 (資料「どことなくふうができるかな」小学校中学年用人権教育資料『ほほえみ』令和4年度版)	
対 象：4年生	実施場所：4年1組教室
ア ねらい 誰もが安全に安心して過ごせるための工夫について考え、社会の一員として共に過ごしていこうという意欲を高める。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>「どことなくふうができるかな」の資料（前半）を読み、良太さんがロービジョンという目の障害があることを理解させ、良太さんが安心して生活できない不合理な状況にあることを考えさせる。</li> <li>資料後半を読み、誰もが過ごしやすい環境を整えることの大切さをおさえる。</li> <li>自分の学校に良太さんが転校してきたらどんなことができるかを考えていく中で、自分事として考えさせたい。</li> <li>神岡小学校や自分たちの町や近隣の町の写真を見せてより身近な問題として捉えさせ、環境が整備されていても人の心が変わらなければならないことに気付かせる。</li> <li>総合的な学習の時間に色々な福祉体験学習をしておき、そのことを想起して考えることができるようにする。</li> <li>総合的な学習の時間に、ユニバーサルデザインについての学習をしておき、予備知識をもって授業に取り組む。</li> <li>授業の最後のステップで、パドレットを使って自分の考えをまとめ、学級のみennaと共有する。</li> </ul>	
ウ 連携先：家庭、地域、たつの市地域包括支援課、たつの市社会福祉協議会	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> <li>月1回親子読書の日を設定し、兵庫県道徳副読本や道徳の教科書の教材等を親子で読み合い感想を共有する。</li> <li>総合的な学習の一環として、社会福祉協議会を通してアイマスクや点字・手話等の体験をしたり、地域包括支援課の認知症サポーター養成講座を受講したりする。</li> </ul>	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>授業での発表など児童の様子</li> <li>パドレットでの記入内容</li> </ul>	
キ 成果 9月からの福祉体験学習が活かされた児童の発表が多く見られ、自分の言葉で意見を言える姿が見られた。また、普段の日常生活の中でも、友だちに対する優しさや思いやりのある行動が見られ、相手の気持ちを考えることのできる児童が増えていると思う。	
ク 課題 障害がある人々が困ることなく自分らしく生きられることが大切であることは理解できても、そうっていない現実におかしいと感じる心、解決されていないことに対する批判力までは身に付いていない。	

[別紙①]

誰もが安全に安心して過ごせるために自分ができることを考えよう

1 はじめに

児童は、総合的な学習の3つのテーマの中の一つ「人権」で、『やさしい町 神岡』の学習に取り組んできた。点字体験、アイマスク体験などの体験をしたり、認知症サポーター講座を受講したりするなど、福祉についての学習を深めてきた。バリアフリーやユニバーサルデザインなどについても学習している。



【アイマスク体験】

2 道徳（人権）の授業として

様々な社会福祉体験をしたことをもとにして、資料「どことなくふうができるかな」（小学校中学年用 人権教育資料『ほほえみ』）を題材として、道徳（人権）の授業に取り組んだ。

## 第4学年 道徳科（人権）学習指導案

- 1 主 題 身近な障壁に気づき、誰もが安全に安心して過ごせるために自分ができることを考えよう  
道徳科の内容項目 親切、思いやり B- (6)  
人権教育の内容 社会参加の促進 3- (2) -イ
- 2 資料名 「どことなくふうができるかな」（令和4年度版ほほえみ）
- 3 主題設定の理由
  - 本学年の児童は、これまで総合的な学習の時間で社会福祉体験を行い、障害のある人の生活や困っていることについて学んでいる。アイマスク体験では、アイマスクを着用してトイレに行ったり給食を食べたりすることで、障害のある人の不自由さや不安について実体験を通して知ることができた。しかし、自分とは関わりのないことと捉えている児童も少なからずおり、誰もが安全に安心して過ごせるために自分にできることを考えようとするまでには至っていない。
  - 本資料は、目に障害のある良太さんについて正しく知り、障害のある人に対して、自分たちができることを考えていこうとする話である。白杖を使って生活する良太さんは、雨の降る日に階段の境目をふみ外し、転んでしまった。その出来事をきっかけに、安全に過ごすための工夫をみんなで考えていく。みんなの意見を聞くうちに、わたしは良太さんにとって配慮が必要な場所を改善していくことは、障害のある人だけでなく、誰もが過ごしやすくなることにつながると気付く。誰もが安全に安心して過ごせるための工夫を考えることにより、障害の有無にかかわらず、一人ひとりを大切にした共生社会の実現に向けて自発的に行動しようとする意欲を高めるために適した資料である。
  - 指導にあたっては、まず、資料を読み良太さんの障害について理解させる。次に、資料を分割提示することで目に障害のある良太さんだけが安全に安心して生活することができない不合理な状況にあることを考えさせ、生活する中で障壁となるものを除くことや安心して生活できる環境を整えることの大切さについておさえる。そして、良太さんに対してだけの問題ではないと思った理由を考えさせることで、障害のある人だけでなく誰もが過ごしやすい工夫が必要であることに気付かせる。さらに、点字ブロックの上に駐輪してある自転車の写真を提示し、誰もが過ごしやすい環境が整備されていても、人の心が変わらなければならないことに気付かせ、共生社会の実現に向けて一人ひとりが日常生活に生かそうとする意欲をもたせる。最後に、学習をふり返り、考えたことやこれから自分にできることについてパドレットに書かせ発表させることで、誰もが安全に安心して過ごせるために社会の一員として共に過ごしていこうとする意欲を高めたい。
- 4 人権の視点  
障害のある人々の思いや願いを知り、自他の特徴や特性を肯定的にとらえることは、誰もが過ごしやすい共生社会の実現につながる。
- 5 本時の目標  
誰もが安全に安心して過ごせるための工夫について考え、社会の一員として共に過ごしていこうとする意欲を高める。

6 学習の展開

児童の活動	指導上の留意点 (◇は評価)	備考
<p>1 資料前半を読む。</p>	<p>○良太さんの様子が分かるように挿絵を使いながら資料前半を分割提示してゆっくり読む。 ○良太さんの障害のロービジョンについて説明することで、良太さんの置かれている状況をおさえる。</p>	<p>(全体) 挿絵</p>
<p>だれにとっても過ごしやすい社会とは、どんな社会だろう</p>		
<p>2 「わたし」の思いについて考える。</p> <p>(1)けがをした後の良太さんの様子を見た時。 ・良太さんを助けないと。 ・良太さんだけが不安を感じているなんておかしい。</p> <p>(2)クラスみんなができる工夫を出し合う時。 ・良太さんに安心して過ごしてほしい。 ・良太さんのために考えたい。</p> <p>(3)良太さんに対してだけの問題ではないと思った時。 ・困っているのは良太さんだけじゃない。 ・私たちにとても使いやすいようにしたいな。</p>	<p>○その後の良太さんの様子に注目させることで良太さんだけが安心して生活できない不合理な状況にあることを考えさせる。 ○近くの友だちが自然に補助する様子から、良太さんは周りの助けがあることで安心して生活できることを理解させる。</p> <p>○資料の後半を読み、転んだ原因を考えさせることで、誰もが過ごしやすい環境を整えることの大切さをおさえる。 ○どうして良太さんが安全に階段を使えるように、話し合うことになったのかを考えさせ、良太さんに安心して過ごしてほしいという思いがクラスみんなにあることに気付かせる。 ○良太さんに対してだけの問題ではないと思った理由を考えさせることで、障害のある人だけでなく、自分たちやけがをした人、低学年の児童などが過ごしやすい工夫が必要であることに気付かせる。 ○良太さんにとって危ないと感じる場所の改善は、他の人にとっても過ごしやすくなることであり、バリアフリーの考えであることをおさえる。</p>	<p>(全体) 短冊</p>
<p>3 誰にとっても過ごしやすい社会について考える。</p> <p>(1)自分の学校に良太さんが転校してきたら。 ・良太さんは階段が不安だと思うから、手すりまで案内する。 ・良太さんが借りたい本を聞いて一緒に探す。</p> <p>(2)自分たちの身近な地域について ・障害があるとかないか関係なく安心して過ごせる社会。 ・どんな人でも安全に安心して過ごせる社会。 ・障害のある人や自分たちにとっても便利な社会。</p>	<p>○神岡小学校にあるスロープや多目的トイレの写真を見せることで、一人ひとりが自分事として日常生活に生かそうとする意欲をもたせる。 ○福祉体験を思い出させ、良太さんの思いや願い、自分にもできることを考えさせる。 ○東鯉崎駅の写真を見せることで、社会的障壁を除くバリアフリーの取組や誰もが利用しやすいよう設計されているユニバーサルデザインの取組が増えていることをおさえる。 ○点字ブロック上に駐輪してある自転車の写真を提示し、誰もが過ごしやすい環境が整備されていても、人の心が変わらなければならないことに気付かせる。</p> <p>◇社会の一員として、共に過ごしていこうとする意欲を高められたか。</p>	<p>(全体) 写真 スライド</p>
<p>4 学習のまとめをする。</p>	<p>○学習をふり返り、誰もが安心して安全に過ごせる社会を作っていくために考えたことやこれから自分にできることについてパドレットに書かせクラス全体で共有することで、本時のまとめとする。 ◇誰もが過ごしやすい工夫について、自分事として考えることができたか。(発言・記述)</p>	<p>(個人) タブレット</p>

板書と授業の様子



(児童のふり返りを抜粋)



- ・ ぼくは、これから心のバリアフリーを大切に、よい神岡町にしていきたいです。
- ・ 私は、もし学校に障害のある人が転校してきたら、サポートをして相手の気持ちを考えたいです。理由は、相手の気持ちを考えてみたら、たくさん困っていることがあると思うし、自分でできることもあるからです。

【大型テレビに映したパドレットでのふり返り】



3 成果と課題

児童は、自分の意見を自分の言葉で積極的に発表でき、良い雰囲気の中で授業を進めることができていた。児童同士のやりとり（対話の場面）があればより良かったのではないかと思います。また、福祉体験やバリアフリー・ユニバーサルデザインについての理解など、総合的な学習の時間での学びが活かされていた。事前研究の中で、この資料が人権課題の見えにくい課題であることから、どう進めていくのが良いのかという問題意識をもって全職員で議論し展開を考えた。公開授業を見てくださったたつの市教育委員会の先生から、そのような時は資料を改作するのも一つの方法だと教えていただき、今後の課題として改作も考えていきたい。また、最後の終わり方にも関連しているが、思いやりだけでは人権課題は解決しないことも助言していただき、今後の人権学習の取組の中で共通理解を図りたいと思う。